こたえ合わせ

第1問

答え：1番
「自分のメンコを上から叩きつけて起こす風」

解説：メンコは自分のメンコを地面に叩きつけたときに起きる風で、相手のメンコをひっくり返すと勝ちになります。上手な子は角度を工夫して強い風を起こしていました。

第2問

答え：2番
「ろうそく」

解説：懐中電灯が家庭に普及する前の昭和30年代ごろ、肝試しといえばろうそくの火が定番でした。揺れる炎が余計に怖さを引き立て、子どもたちの思い出に深く刻まれています。懐中電灯が普及してからはそちらも使われるようになりました。

第3問

答え：2番
「するめいか（スルメ）」

解説：昭和のザリガニ釣りといえばスルメが定番のエサでした。においが強く水中でもよく漂うため、ザリガニが引き寄せられやすかったのです。糸の先にスルメをくくりつけるだけの手軽さも人気の理由でした。

第4問

答え：2番
「いちご」

解説：昭和の駄菓子屋や移動販売の自転車で売られていた10円のアイスキャンディーは、鮮やかなピンク色のいちご味が定番でした。甘酸っぱい味と真夏の暑さの組み合わせは、多くのシニアの方が懐かしく思い出す昭和の夏の風景です。

第5問

答え：2番
「手回し（手動式）」

解説：昭和30～50年代の家庭用かき氷器は、ハンドルを手で回して氷を削る手動式が主流でした。子どもがハンドルを回すのを手伝い、家族みんなで作ったかき氷は格別でした。シロップは赤（いちご）・青（ブルーハワイ）・黄（レモン）が人気でした。

第6問

答え：3番
「封じ玉（ふうじだま）」

解説：ラムネ瓶の口を塞いでいる球は「封じ玉」と呼ばれます。ビー玉よりやや大きく、炭酸の圧力でふたの役割を果たします。昭和の子どもたちは飲み終わったあとに瓶を割ってビー玉ならぬ封じ玉を取り出すのも楽しみのひとつでした。

第7問

答え：1番
「うちわ」

解説：エアコンはおろか扇風機も高嶺の花だった昭和30年代前半まで、夏の暑さをしのぐ道具はうちわが基本でした。縁側に腰かけながらうちわをパタパタあおぐ姿は昭和の夏の典型的な風景です。その後昭和40年代には扇風機が家庭に急速に普及しました。

第8問

答え：2番
「就寝のとき布団の周りに吊るす」

解説：蚊帳は四隅を天井や鴨居に吊るして使う薄い網状の幕で、寝るときに蚊やほかの虫の侵入を防ぎました。薄緑色の蚊帳の中に入る瞬間の独特の雰囲気を覚えているシニアの方も多いでしょう。昭和50年代以降は蚊取り線香や電気蚊取りの普及で使われなくなりました。

第9問

答え：2番
「和紙（障子紙）」

解説：金魚すくいのポイは、昔から薄い和紙（障子紙）を木の枠に張ったものが使われています。水に触れるとすぐに破れてしまうため、いかにやさしく素早くすくうかが腕の見せどころでした。昭和の夏祭りで夢中になった方も多い懐かしい遊びです。

第10問

答え：1番
「植物の観察（朝顔の成長記録）」

解説：昭和の小学生の夏休みといえば、朝顔の観察日記が定番の宿題でした。毎朝水やりをしながら花の色・大きさ・枚数を絵日記に記録する課題で、全国の小学校で広く取り入れられていました。朝顔は夏の花壇を彩る昭和の夏の象徴的な植物でもあります。